

整形外科領域における 関節リウマチ診療の現状と将来

関節リウマチ（rheumatoid arthritis；RA）の診療について、皆さんはどのような印象をお持ちだろうか。「新しい薬剤がどんどん出てきて覚えられない」「様々な部位に問題があるので治療が難しい」そして「合併症が多くて対応できない」などネガティブな印象を持っておられる方も多いことと思う。若い整形外科医に「リウマチ離れ」がみられる理由として、このようなネガティブな印象が挙げられるだろう。しかしこれらの懸念は裏を返すと、「有効な薬剤が次々と現れている」「色々な関節の治療（手術）ができる」とポジティブに捉えることも可能である。

また多くの関節に問題が存在するため、手術だけでは十分な機能回復が望めず、装具療法やリハビリテーションについての知識が必要とされる局面も多い。様々な合併症についてはたしかに整形外科医の手に余ることもあるだろうが、内科など他科の医師の助けを借りて共同で治療にあたっていくという貴重な経験を積む機会にもなりうる。

筆者が研修医だった当時「整形外科医は generalist であるべきか？ specialist であるべきか？」という議論があったが、上記のごとく RA 診療とは患者の全人的なケアであり、必然的にわれわれには generalist であることが求められる。整形外科においても専門分野の細分化および高度化が進み、RA のように総合的な診療が必要な疾患が苦手の医師が多くなってきているのは否めない。しかし欧米とは異なり、わが国では RA 診療は主として整形外科医が担ってきたという長い歴史がある。また患者の ADL や QOL、そして人生にトータルにコミットしていくという点で、整形リウマチ医（orthopaedic rheumatologist）のやりがいはいは極めて大きい。

本特集では第一線で RA 診療に携わっておられる方々に、RA 診療の魅力を存分に語っていただいた。特集を通じて皆様に RA 診療の面白さの一端を感じていただければ幸いである。

（田中 栄）